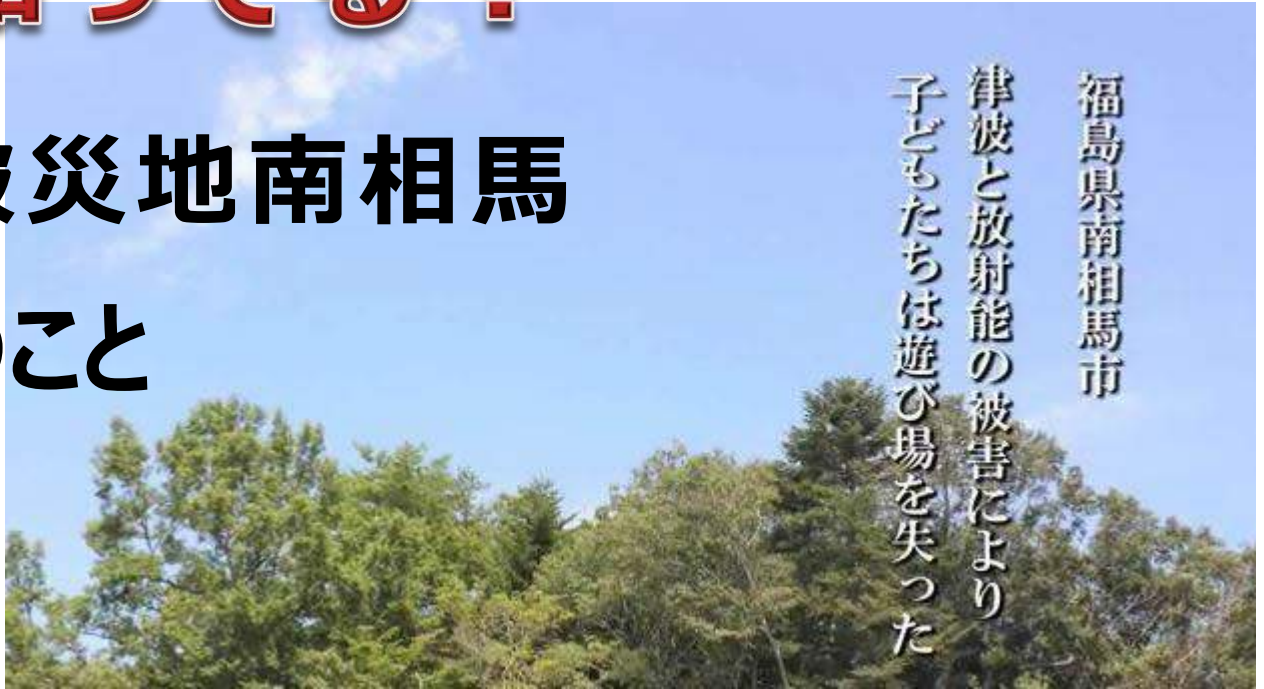


知ってる？

被災地南相馬 のこと



東日本大震災復興支援プロジェクト

■なりたち

東日本大震災から4年経った今も、福島の子どもたちが自由に外遊びできる環境は整っていません。知多市は、東日本大震災の被災地支援として、現在までに8人の職員を南相馬市に派遣、また、平成25年7月には災害時相互援助に関する協定を結ぶなど、南相馬市との関係が深まっています。

今回、私たち知多市民ができる「被災地南相馬」支援とは何なのか？そう願う市民、市民活動団体が昨年12月と今年4月の2回にわたって現地事前調査を行い、まずは知ることから始めようと実行委員会を立ち上げ企画してきました。

■これまで行ってきたこと

【知ってる？被災地南相馬のこと】(知多市開催)

平成27年6月21日 知多市民体育館 200名参加

第1部 報告会「派遣職員から見た南相馬市の復興状況について」

(講師) 竹内尚明氏/知多市元職員

第2部 講演会「おれん家だもん！南相馬」

(講師) 高橋慶氏/NPO法人みんな共和国代表理事

2015年(平成27年)6月22日(月曜日)

南相馬への支援
NPO代表語る
知多



東日本大震災で被災した福島県南相馬市への支援を考える「知ってる？被災地南相馬のこと」が二十一日、知多市民体育館であった。南相馬市のNPO法人「みんな共和国」の高橋慶代表理事(右)が「おれん家だもん！南相馬」と題して講演した。写真。

高橋さんは、福島第一原発事故後、屋外で自由に過ごせなくなった家のよつなもので、大変な状況になった故郷を何とかするのは、自分しかないと思っただ。今後活動も続けたい」と語った。

南相馬市へ派遣された元知多市職員が、現地の復興状況の説明もした。

講演会は、知多市が市制四十五周年記念事業として開き、住民ら二百人が参加した。二十八日午後六時から同市緑町の市民活動センターで、参加者が感想を語り合う会もある。

知多市制施行45周年記念事業

【校長先生が見た南相馬】(知多市、南相馬の子育ち応援「けやき」主催)

平成27年11月14日 知多市青少年会館 53名参加

講演会「南相馬市から富岡町までの現状」

(講師) 鹿嶋勉氏/常滑市立常滑中学校校長



【実行委員会】 ※順不同

KISS サイエンス

KISSは「心とからだ」、サイエンスは「考える」こと、思春期の子どもたちのこころとからだについて考え学び、情報交換をしながら活動している。

大人の学校同窓会

平成19年度から知多市団塊世代キャリア活用事業として、“学び”“調べる”“体験する”をキーワードに、生きがいと地域の活性化を図ることを目標に開校、卒業後、平成22年に立ち上げ、同窓会ネットワークを通して持続可能な社会貢献活動を目指す。

Bumpy Company

妊婦期から未就園児を対象にした相談、学習などコミュニケーションの場づくりを行い、凸凹(でこぼこ)があっても当たり前な社会を目指す。

ちたビジョンプロジェクト

外国にルーツを持つ子どもや若者の声に耳をかたむけ、言語や文化、国籍などの違いが原因で起こる教育や就職における課題を解決することを目指す。

市民をつなぐ Link ちた

知多市民一人ひとりの想いをつないで、共に心豊かに暮らせるまちをめざし、相談、学習、コーディネート、情報共有、企画、提案、活動を行う。

知多市やまももおやこ劇場

親と子が子どもの年齢にあった生の舞台(例会)を観つけ、子どもたちの心を豊かに育てたいと願う大人たちが自分の地域で子どもの仲間づくりをしながら共に子育てをし合っている。

日本福祉大学Cラボ東海

地域と大学の協働による地域連携推進拠点(Cラボは、地域と大学が交差するところに生まれる新しい交流・学びの場として、共に学び成長する新たな地域連携モデルを実現するための取り組みを推進する。

NPO法人新青樹

子どもの生きる力を養う冒険遊び場ニプレーパークの啓発、運営、アコースティックライブの開催など、若者の居場所づくりに関する事業を行い、魅力ある地域にすることをめざして活動する。

NPO法人地域福祉サポートちた

誰もが自分らしく心豊かに生きていけるまちづくりを目指し、知多半島を中心に分野を超えたネットワークを広げる。